

濱田滋郎 ● Jiro Hamada

推薦 ヨハン・フリードリヒ・ブルクミュラー(1806-74)の名前、あるいはとくに彼の手になる《やさしい練習曲集》作品100、と聞くとき、小生の心中を一瞬、とてもまじりの悪い苦笑いのようなものが走る。ピアノスト(?)としては極め付きのドアマチュアに過ぎないにもかかわらず、不肖小生、まだあまり仕事も来ない青年時代、ご近所のいとけいなお嬢さんがたに(ではない、その親御さんたちに、ですわ)頼まれて致し方なく、右の曲集からの抜粋を教材にしてピアノを教えていたことがあるのだ(!!)。時には課外授業(?)の自然観察ともなり、裏を流れる溝(ホテルに住むほどきれいな湧き水だったので、念のため)でカニをみつけたお嬢ちゃんもいた。幾星霜、近隣に宅地造成が相次いだ今では、とうに絶滅したホテルはおろか、玄関からカニが訪ねて来てくれることもなくなつた。……ごめんなさい、こんなしょうもない思い出話を書きつけるスペースではない。ただ、この曲集以外のどのような音楽からも、こんな思い出話は湧き出て来ないことも、また確かなのです。

その《25の練習曲集》をはじめ、姉妹編である《18の練習曲集》作品109、あるいはより年長者、経験者のために書かれた《華麗で旋律的な練習曲集》作品105、そして末尾にはヴェルディ作品によるオペラ・ファンタジー、演奏会用のワルツ各1曲と、ブルクミュラー作品のみを2枚のCDに収めた、思えば結構めずらしいこのアルバムは、ピアノという楽器がヨーロッパ諸国で「家庭の楽器」となり浸透し始めた19世紀前半の雰囲気をつつとと落している。けつしてたんなる子供用、初心者者の練習曲、その、模範演奏例、集ではないものを、私はここから感じ取ることが出来る。ひとつには、ブルクミュラーの楽曲が、「誰にでも弾ける、やさしい楽曲」という制約の中で、たいへん豊かな情緒をかもし出すものであるから。実際、本質において、メンデルスゾーンの《無言歌集》を彷彿させる曲目すら、ここには散見されるのだ。もうひとつには、全曲にわたり演奏する黒田亜樹のピアノが、終始、なんとも美しく、イマジネーションを喚起する力にも富んでいるから。このようにまで、生きていて、奏楽だと、楽曲の平易さまで、なにか貴重な財産に思えてきてしまう。かねがね実力者として知られる人ではあるが、黒田亜樹というピアノリストの素晴らしさに、改めて私は惚れ込んでしまった。

蜂尾昌男 ● Masao Mineo

【録音評】2011年にミラノの模超近で映像と同時録りの参考な様。いまどき珍しいのかもしれないが、音楽鑑賞は無理。同相のDVDに見る画像では蓋を取り払ったピアノのすぐ上になるほどの本見られる音。付属紙上トラム思われた表記以外にの選まてた番号が書いてない曲がとでもやり(87)



THE RECORD GEIJUTSU 準 特選盤

■ブルクミュラー／練習曲全集

【①25の練習曲②18の性格的な練習曲③華麗で旋律的な12の練習曲④ヴェルディの《エルナーニ》によるファンタジー・プリランテ⑤レーゲンスブルクの思い出】
黒田亜樹(p)
[LIMEN]©CDVD005C005(2枚組+DVD)]
オープン価格

が、当ディスクの主役ヨハン・フリードリヒの《練習曲》も、弾くのは易しいが、音楽的にはいろいろヴァラエティに富んでいて、新しい《練習曲》がたくさん出てきて根強い人気を持っている。

黒田亜樹は東京芸大卒業後、イタリヤのベスカール音楽院高等課程を経てフランス音楽コンクール第1位、ジローナ20世紀音楽コンクール現代作品特別賞受賞、日本現代音楽協会主催する現代音楽演奏コンクールや朝日現代音楽賞などの受賞歴がある。ブクレッツトのプロフィールによれば、ピアノも得意とする人らしい。とすれば、現代音楽に強みを発揮する個性派ピアノストが、なぜブルクミュラーなのかよく分からないが、この演奏がなかなか面白いのだ。《練習曲》の模範演奏を超えている。とはいってもしよせん曲が曲だけに限界はあるのだが。

このディスクが興味深いのは2枚目に「ヴェルディのオペラ《エルナーニ》」によるファンタジー・プリランテ作品92と、《レーゲンスブルクの思い出》と題されたワルツ・プリランテ作品67が収録されていることだ。前者は技巧的で華やかなサロン音楽。後者は作曲家の生まれ故郷への哀愁に満ちた小品。いずれも黒田はメリハリの効いたアーティキュレーションと生き生きとした演奏で楽しませてくれる。

那須田務 ● Tsutomu Nasuda

推薦 兄弟で音楽家として活躍する人たちは少なくない。パッハの息子たちを引き合いに出すまでもないだろう。あまり有名どころではないが、フルート愛好家なら知らない人はいないドップラー兄弟もそうだし、バロック期のペンダ兄弟然り。そしてこのブルクミュラーもそうだ。

兄のヨハン・フリードリヒ(1806-74)と弟のノルベルト(1810-36)。兄はレーゲンスブルク、ノルベルトはデュッセルドルフ生まれのドイツ人だ。作曲家としては弟の方が興味深い。ただ地位に無関心で世知に疎かったために周囲から賞賛されつつも、26歳という若さで亡くなった。メンデルスゾーンやシューマンもその死を惜しんだという。一方、兄の方はバリでピアノ教師として名声を馳せ、数々の《練習曲》を書いた。この兄がこのCDの主役である。ツェルニーのそれと同様に、ピアノの初心者が必ず習う古典的な《練習曲》としてあるいは子供のためのピアノ・コンクールの課題曲としても親しまれている。実はこのブルクミュラー兄弟、ここ10年ほど関心が高まっていて、とくに昨年生誕200年を迎えた(そうシヨバンとシューマンの同級生)ノルベルトの人氣が高いようだが、